

確かな学力の充実に向けて（研究授業と要請による学校訪問）

	質 問	7年12月	8年9月
2	私は授業が楽しい。	77.3	87.7↑
3	私は授業の内容を理解できている。	75.5	80.0↑
4	私はグループ学習など対話活動に積極的に参加している。	83.6	88.5↑
5	私は授業の振り返りができている。	66.1	77.1↑
6	私は家庭学習の習慣が身に付いている。	52.7	64.7↑
7	私は学校で積極的に自分の意見や考えを言うことができている。	65.1	69.5↑

上の表は、1学期末の生徒アンケート調査の結果です。前回大幅に数値が低下した学習に関する設問に対して数値が向上し、1年前とほぼ同等まで戻すことができました。今年度4月から力を入れて取り組んできた成果が出たことを素直に喜びたいと思います。2学期からも、確かな学力の充実に向けて、確固たる取組となるよう努力していく所存です。

さて、9月29日（火）に要請による学校訪問がありました。これは、三豊市教育委員会が県教委（西部教育事務所）に要請を行い、双方の訪問を受けて学校経営や教育活動について指導・助言をいただく日です。私たちは日常的に教育委員会の指導を受けながら教育活動の充実に努めておりますし、三豊市からは財政面等で多大な支援をいただいております。それ故に、来訪してくださる方々をおもてなしの心でお迎えし、学校の取組や子どもたちの育ちをつぶさに見ていただいた上で直接指導をいただける重要な機会と考えております。

それに先立ち、9月14日（月）～16日（水）を第2回研究授業日に設定し、5名の教師が道徳の研究授業を行いました。参観後はグループで授業討議を行い、全体会で共有しました。一人ひとりの生き方が違う子どもたちが道徳性を養うこと自体が「個別最適な学び」であり、学んだことを日記に書きたいと思えるような授業こそが「深い学び」だと考えます。今後もこうした道徳の授業の充実に努めてまいります。

学校訪問日の全体指導では、本校の子どもたちの落ち着いた雰囲気（笑顔、挨拶、身だしなみ）と、姿勢を崩さずに一生懸命に授業を受けていること、先生方ができない子や遅れている子にしっかりと関わりながら、子ども目線で授業を行っていること等に加えて、ボランティア活動や夢講演会など継続して行っている心を育てるための取組、子どもと教師との厚い信頼関係、現状の改善に向けた意識の高さ等、多くの温かいお褒めの言葉と肯定的な評価をいただきました。今後の大きな励みにしたいと思います。



豊かな心

熊本県への支援に続き、9/7には富山県氷見市への支援を行いました。富山県氷見市と本校の間には、次のような深いつながり（ご縁）があります。①能登半島地震の発災当時、本校が最初に土のう袋をお送りした支援先が氷見市であったこと、②当時は災害ボランティアの募集が富山県内に限定されていましたが、支援がご縁となって特別に翌月のボランティア活動を受け入れていただいたこと、③氷見市で本校の土のう袋に心を動かされた富山県の男性から、心温まるお手紙とともに、仁尾小・曾保小を含む3校の子どもたちへ富山のお菓子を贈りいただいたことです。今回、改めて支援を行いたいと考え、承諾のご連絡を差しあげた際、責任者の方にこの「お菓子のエピソード」をお伝えしたところ、電話の向こうで感極まっておられました。こうした一つ一つの温かいご縁は、これからも大切にしていかなければならないと改めて強く実感しております。また、9/30には熊本県への2回目の支援（氷川町）を実施いたしました。台風による大雨など、全国各地で甚大な被害が発生しております。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の皆様が少しでも元気を取り戻せるよう、今後も微力ながら支援を続けてまいりたいと思います。

